

# IMF-JC金属

発行所  
全日本金属産業労働組合協議会

住 所 東京都中央区日本橋2-15-10  
電 話 03-3274-2461  
編 集 IMF-JC組織総務局  
発行人 團野 久茂  
定 価 1年分 60円

IMF-JCホームページ <http://www.imf-jc.or.jp>

## 2004年 年頭所感

時代の変化の速さを象徴する意味でドッグイヤーといわれた21世紀も今年で4年目を迎えました。その変化はグローバル化に翻弄される企業経営のあり方にとどまらず、労働条件や働き方など労働組合運動においても例外なく起こりつつあります。そして時代の進歩と共に変化する価値観とあいまって、労働者とはどうあるべきなのか、人々の人生とはどうあるべきのかなどが問われ、まさに明治維新を上回る歴史的な屈折点となりつつあります。

### 一つの判断ミスが企業存続を左右する 労働組合の経営対策活動が より重要になる時代

企業経営のうえでは、製造業における生産量の需給関係も国内だけではなく、グローバルに判断する必要に迫られ、明らかに過剰設備の産業においては企業の自然淘汰は避けられません。今日の勝者が明日の敗者になることも起こり得るでしょうし、あるいはまた、小さな市場であれば1位しか生き残れないということにもなりかねません。一つの経営判断の過ちが企業存続さえ脅かすのです。労働組合の産業政策や経営対策活動の重要性は過去の比ではありません。

### 難題が山積している組合運動 精神的充足を柱にすえた新たな運動を

また労働条件に関係することといえば、国際競争下における日本の賃金水準はどうあるべきなのか、失業率の高止まりと非典型社員の増大に代表される労働市場の変化への対応、職種や職業能力が重視される時代での労働組合の役割、マニュアル化された働き方と裁量労働など、今までに経験したことのない難題が山積しています。

同時に労働者の勤労観も大きく変わりつつあります。「滅私奉公」観はなくなり、「一生一社」も変化の兆しを見せ始め、仕事に対する「やり甲斐」観が重視され、「難しい仕事を成し遂げた

## 歴史の曲がり角を迎えて 二〇〇四年のJC活動を考える

IMF-JC議長  
鈴木 勝利



報酬は、より難しい仕事」と考える人々さえ出始めています。生活の根幹を成す「働く」ことの意味が、単に「給料を得るため」だけではなく、そこに「やり甲斐」や「生き甲斐」という精神的な満足感を求める時代を迎えているのです。

こうしたことから、「豊かさ」を「モノ」や「便利さ」でしか量ってこなかった過去の価値観を転換し、家庭生活を含めた人生そのものの意味を考える時ともいえるのです。

### リーダーの確信が不可欠 結成40周年を機に新たな方針の確立を

およそ社会的な問題もそうですが、労働組合運動もまた、1+1=2という数学の定理のようなものは存在せず、新たな考え方や方針の正しさを証明する手立てを持っていないのです。正しさの証明はひたすら歴史、時間に待つしかないのです。その証明が出来ない以上、その考え方や方針に賛否両論が百出することは当然のことでもあります。そうした時に大事なことはそれぞれの組織におけるリーダーが確信しているか否かということであり、それが出来ない組織は迷走を続けるしかありません。変化の激しい時代での迷走は組合員を不幸にすることしかもたらさないでしょう。

今年5月に結成40周年を迎える金属労協は、9月3日に開く大会で新しい時代にふさわしい「賃金・労働政策」を決めることにしています。議論百出の中からより良い方針がまとまることを期待しています。

## 第46回協議委員会開く

金属労協（IMF-JC）は、11月28日午後1時半から「ホテルイースト21東京」（東京都江東区）で第46回協議委員を開催し、2004年闘争方針「2004年闘争の推進」を機関決定した。

# 2004年闘争方針を機関決定

冒頭、鈴木議長が挨拶に立ち、衆議院選挙結果を受けて新しい時代に適応するJC共闘の模索 社会的規範力を持たせたいJCミニマム 待ったなしの企業行動規範の締結などについて所感を述べた。

来賓として、連合笹森会長が出席され、激励の挨拶をいただいた。

協議委員会では、報告事項として、長村事務局次長から、9月2日第42回大会以降の一般経過報告を行い、承認された。

協議事項としては、第1号議案として2004年闘争方針である「2004年闘争の推進」について團野事務局長が提案した。加盟5産別からは原案賛成の立場で意見・要望がだされ、本部答弁をおこなった後、満場一致で決定した。今後、加盟5単産はこの方針を受けて、明年1月から2月中旬にかけ中央委員会を開き、単産としての闘争方針を機関決定し、2004年闘争の具体的な展開に入る。

第2号議案として、2004年9月大会が役員改選年となることから、「役員選考委員会の設置」について團野事務局長から提案し、満場一致で承認された。

最後に、9月9日の基幹労連の結成に伴う退任役員6名の方の表彰が行われた。鈴木議長から感謝状が各人に手渡され、代表して、常任幹事を3年務められた船木孝治基幹労連事務局長代行が挨拶した。

終了後、同ホテルで恒例の年末懇親会が、協議委員、役員その他、役員OB、内外関係者の出席を得て、盛大に開催された。



来賓の連合笹森会長（上）と提案する團野事務局長

鈴木議長  
挨拶要旨

## 新しい時代に適応するJC共闘を模索

2004年闘争の方針ですが、この方針をまとめるに当たって、一番苦労したのは、関係する産業動向がバラつく中であっても、先進国のいずれもがそうであるように、国の労働条件の規範をつくる使命を持つのは基幹産業であり、その基幹産業としてのJCが、何を基準に共闘の基軸をつくるかでありました。かつてのように、経済はもちろんのこと、ほとんどの産業や企業が右肩上がりの成長を遂げ、かつ発展途上国に対しては決定的な競争力を持ち、その上に、物価はインフレ、長期間にわたって2%前後という低失業率、典型社員中心の労働市場の時代、そうした時代には可能であった、一律に近い「賃上げ方式」は今日では望むべくもなく、新たな時代環境に適応するJC共闘の共闘軸を構築する時期にあるからです。

新しい時代に適応するJC共闘とはどういうものなのか。この命題に対し、関係する諸機関で多くの時間を割いて議論を重ねてきました。そして、それぞれの産業動向、企業の業績動向に応じて主体的に取り組むにあたって、「ものづくり産業」であり、「金属産業」の一点こそが共通の基盤であり、それを基軸にしてJC共闘を構築することにしました。

したがって今後の課題として、時間が必要ではありますが先進国間における総労務費比較、他産業との関係における金属産業の位置づけなどの国際比較上の調査・研究を宿題にしつつ、「すべての組合で賃金構造の維持分を確保」し、さらに産業・企業の状況に応じて産別が主体的に判断し賃金の引き上げに取り組む方針としました。

### 社会的な規範力を持たせたいJCミニマム

また全体で取り組むものとしては、「JCミニマム運動」の強化があります。

連合もようやくパート時給と企業内最低賃金の連動を最重点要求に掲げるようになりました。JCはその方針を全面的に支

持し、昨年に引き続き「JCミニマム運動」を2004年闘争の主要な柱に位置づけるとともに、実効をあげられるよう各組合皆さんの一層のご努力をお願いしておきたいと思っております。

取り組む時期に猶予はありません。来年よりは今年から、明日よりは今日から取り組まねばならない課題です。JC共闘はその第一歩を昨年踏み出しました。企業内最低賃金の締結と、それに連動させる新産業別最賃、加えて「JCミニマム(35歳)」であります。

その集大成が、将来の「大ぐりの職種別賃金」への移行に結びつくのです。

そして、政・労・使合意によって均等処遇などの環境整備を進めながら、短時間正社員などを含めた1500労働時間「ワークシェアリング」による、「雇用安定」産業を目指すのです。

私たちは、「この水準以下で働く人はいない、働かせる企業はない」金属産業を目指していかなければなりません。そのためにもJCミニマムに強い社会的規範力を持たさなければなりません。ミニマムをクリアしている単組も連帯し、かつ社会全体からも「JCの主張は当然である」と受け止められる運動にしなければならぬということです。

全体で賃金の引き上げが図れた時代の物差しで現在を評価することはできません。

新しい時代には新しい物差しが必要です。私たちは、自らの運動が過去の経験に基づく延長線上の情性に陥っていないかを検証しつつ、組合員皆さんとの話し合いを通じて、2004年闘争をさらに前進した運動として構築していかなければなりません。

(編集部注：紙面の都合により、2004年闘争関係のみ抜粋して掲載)



# IMF会長にユルゲン・ペータース IGメタル会長 新体制のもと再始動

ペータース新会長



## 新会長プロフィール

新会長のユルゲン・ペータース氏(59)は、61年にIGメタルに加入後、若年労働者を代表するグループで活動、IGメタル訓練カレッジの講師を務める。76年IGメタルデュッセルドルフ支部の執行委員、88年、98年IGメタルのハーバー地区担当役員、98年にIGメタル副会長、03年8月にIGメタル会長に就任。

## 南アフリカ・ケープタウンで IMF中央委員会開催

IMF(国際金属労連)は、2003年12月3~4日、南アフリカ・ケープタウンで、中央委員会を開催した。会議では、「新しい経済システムへの転換」をテーマに活発な議論を行うと共に、役員人事の交代があり、IMF新会長にユルゲン・ペータースIGメタル会長が選出された。IMF中央委員会には74カ国、127のIMF組織から247名の代議員が参加した(オブザーバを含めると81カ国、300名)。IMF-JCからはIMF執行委員である鈴木議長をはじめ、産別書記長・事務局長を中心に10名が参加した。

鈴木議長(左)と團野事務局長の日本代表



2003年8月ツヴィツケル氏のドイツIGメタル(ドイツ金属労組)会長辞任に伴い、今回の中央委員会ではIMFの会長選挙が行われた。

選挙では、圧倒的多数でペータースIGメタル会長が、新会長に選出された。

ペータース新会長は、「多大な支持をいただき驚きを隠せない。世界の金属労働者のために最大限の努力をする」と就任の挨拶を行った。

### 5組織50万人が新規加盟

新規加盟については、キルギス共和国、メキシコ、パレスチナ、ロシア、ザンビアの5カ国、5組織、約50万人の新規加盟が承認され、新たにIMFの仲間となった。

### テーマ「新しい経済システムへの転換」で活発な議論

「新しい経済システムへの転換」の議論では、それを実行するためには、労働組合と同じ基本的価値観を持つ政治・社会勢力と提携する必要性が指摘された。また国際的には、南と北の労働組合の間の連帯によって統一された労働組合の力の強化の必要性が指摘された。

代議員からは、各国の労働組合が、WTOや二国間貿易協定、国際労働機関(ILO)などの国際機関に対するそれぞれの政府を通じた労働組合の影響力を発揮し、方針の反映を図っていく必要性が述べられた。またIMFの国際枠組み協約(IFA)への取り組みは、多国籍企業に対抗する有効な戦略手段であるとして支持が表明された。

### 決議・声明の採択

中央委員会は、ベラルーシとジンバブエにおける労働組合への継続的な抑圧、スト権に関するインド最高裁の判決、世界貿易機関(WTO)の危機、ブラジルのABC労働者との連帯に関する決議・声明を採択した。

## 日本経団連との懇談会



日本経団連(右側)に意見を述べる鈴木議長

### 企業行動規範、国際競争力の強化で活発な論議

金属労協は、12月9日午後、経団連会館で日本経団連との懇談会を行った。今回の懇談会では、企業行動規範及び企業の社会的責任(CSR)と国際競争力強化の問題について、双方の考え方について課題提起し、率直な意見交換を行った。

冒頭、鈴木議長から、「日本の基幹産業であるものづくり産業の基盤強化のために、国際競争力の強化、高コスト構造の是正などの面で一致できるところは労使共同で取り組んでいきたい。

また、前回からの懸案事項である企業行動規範の労使協定の取り組みは、ヨーロッパを中心に各国で進展しており、CSRでもISOの協定化は世界の流れである。日本の労使だけが取り組まないというわけにはいかない。グローバル化の中で日本だけがローカルルールではすまされないの、是非協力をお願いしたい」と述べた。つづいて、日本経団連を代表して柴田副会長から、「世界に通用する仕組みを再構築するためには、国内において世界に

通用する分野の育成、また『内なる国際化』が必要。このことは経労委報告の中でも触れる予定である。日本の構造をまず見直し、労使でやっていくべきものについて意見交換をしたい」と述べた。

課題提起では、金属労協側から團野事務局長が、金属産業労使会議・事務レベル会議で論議している「金属産業の国際競争力強化に向けた課題」、及び企業行動規範並びにCSRへの取り組みについて報告した。日本経団連側から紀陸常務理事が、日本経団連がまとめた「産業力強化の課題と展望2010年におけるわが国産業社会」を中心に報告した。

その後、企業行動規範、国際競争力の強化の問題などについて活発な意見交換を行った。

# ものづくりの夢を未来へつなぐ

小学生対象に  
第1回ものづくり教室を開催

金属労協(IMF-JC)は、技術・技能の継承・育成、将来の国内ものづくり産業の基盤強化のためには、人材育成が何より重要であり、戦略的なものづくり教育の構築が必要であると主張し、文部科学省をはじめ各方面に要請をしてきた。その具体化のために、まず労働組合自らが取り組もうということで、ものづくりあるいは科学分野の工作・実験など、小学生を対象にした「ものづくり教室」の開設準備を約1年間かけて進めてきたが、ようやく実施にこぎつけた。

スタッフとしてパイオニア労組の皆さんが協力してくれました



進行役の田中さん

金属労協として第1回の「ものづくり教室」を12月20日、電機連合パイオニア労働組合所沢支部の実施により、埼玉県所沢市の「ラク所沢」で開催した。当日、北風の吹く中、地元の小学生15人が参加、工場で生産している本物のDVDプレーヤーの組み立てに挑戦した。

子供達は皆、目を輝かせながら、パイオニア所沢支部の組合員の皆さんの指導を受け、電動ドライバーを巧みに使いながら、完成品に仕上げ、全員が品質検査に1回で合格した。子供達にとって、ものづくりの楽しさを体感したひとときとなったようだ。

ものづくりの夢を未来につなぐ試みがスタートした。

電動ドライバーの使い方の説明を受ける



手順書に従って作業

竹田さんが作業内容の説明



音よし、映像よし、「合格です！」



自分の組み上げたDVDプレーヤーを手 inspection 作業を待つ参加者

小さな部品、なくさずに！



ビス打ちを行う



配線も慎重に



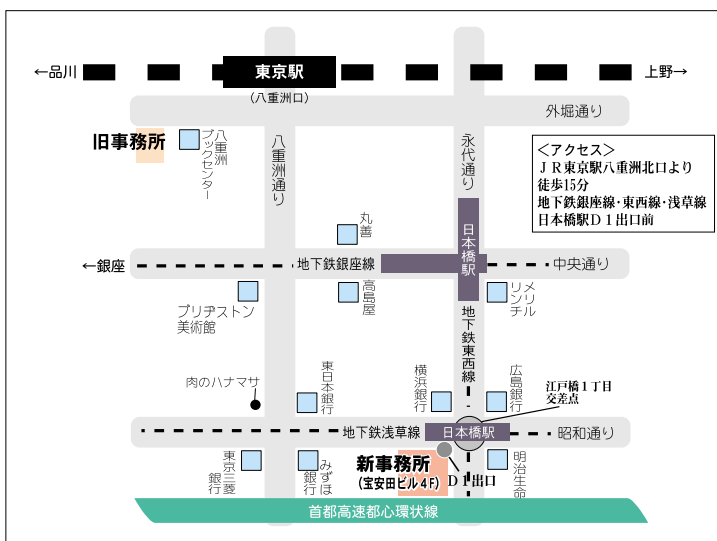
前カバーを付けて



ディスクドライブを取り付け



ボンネットをかぶせて完成！



## よりアクティブに

金属労協は事務所を移転し、12月22日(月)から新事務所にて業務を開始しました。移転先は下記の通りです。これを機により一層、活動の推進に努めてまいりますので、今後ともご支援ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

金属労協(IMF・JC)の  
事務所が移転しました

新住所 〒103-0027 東京都中央区日本橋2-15-10 宝安田ビル4F

Tel 03-3274-2461 Fax 03-3274-2476 Url <http://www.imf-jc.or.jp> (住所以外変更はありません)